

令和5年度第3回釧路市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時	令和5年11月29日(水) 13:30~14:20
場所	釧路市役所防災庁舎5階会議室A
出席委員	25名(うち代理出席4名) 欠席8名
事務局	5名
オブザーバー	0名 欠席3名

1 開会

2 議事

【協議事項】

(1) スクール便(学休日運休便)の運行計画変更について 資料1、資料2、資料3

- ・事務局より説明
- ・原委員より説明

(原委員)

- ・ 当社においても、阿寒バスさんにおいても運転手不足が深刻な問題です。11月11日にバス事業者と北海道様との共催により、運輸支局様のご協力のもと、バス運転体験合同就職相談会を実施しました。80名の参加があり大盛況に終わったのですが、実際の就職にはつながっていないのが現実です。
- ・ 令和6年4月からは2024年問題により、終業から次の始業まで原則11時間は空けなければならなくなり、運転手不足がますます加速します。これを受け、令和5年10月に夜便を前倒しにするダイヤ変更を行いました。
- ・ さらに、少子化による生徒数の減少により、令和6年4月からスクール便の一部廃止を行うことを考えています。学校がある日、210日前後の片道運行だけのために、バスを1台用意しておかなければならず、非効率な運行となっているためです。また、車両の老朽化が当社での一番の課題になっており、71両あるのですが、20年以上使用している車両がほとんどです。この車両修繕費が、ここ数年でかなり上がっており、直近では1億円近くになっています。
- ・ 現在の路線の状況を維持したい気持ちはありますが、乗務員不足もあり、今後も減便する可能性があることにご理解をいただければと考えております。

～質疑あり～

(秋里会長)

- ・ 資料1に掲載の11系統について運行計画の変更を行うことについて、学校の反応はいかがでしょうか。

(原委員)

- ・ 先日、影響の大きい学校に説明を行いました。学校側からは、ご理解をいただいた上で、早めの周知をお願いされております。

(秋里会長)

- ・ 今まで1本で済んでいたのが、乗換が必要になると、朝早く家を出なければならなくなると思います。学生や親への伝達の方法は何かお考えですか。

(原委員)

- ・ 協議会が終了したら運輸局へ変更申請を行います。12月末から、定期券購入の切り替えのピークとなりますので、それまでに、今回の資料にあるような乗換例も参考にしながら、周知を進めたいと思います。

(秋里会長)

- ・ このスクール便は、学生だけでなく、一般の方の利用もあります。そこに対するケアはどうお考えですか。

(原委員)

- ・ 文苑公住線【系統3】について一般利用が多いですが、ほとんど同じルート・時間で文苑公住線【系統1】【系統2】が運行しますので、ケアはできるものと考えています。

(秋里会長)

- ・ 今回の変更により、近郊から2回乗り継ぐことになる人は発生しないでしょうか。

(原委員)

- ・ 近郊から通う学生は、JRを使っていると思いますので、現状と変わらないものと思っています。

(青柳委員)

- ・ 仮にダイヤが遅れた場合、その後に乗り継ぐバスの運行時間を遅らせるなどの連携はとるのででしょうか。

(原委員)

- ・ 連携はしていませんが、設定しているダイヤ自体が余裕をもったものになっていますので、乗り継ぎに遅れるようなことはほとんど発生しないものと考えています。

(吉田委員)

- ・ 今回のくしろバスさんによる変更は人手不足による経営判断によるものと考えています。自治体からの補助金は無限に出せるわけではないので、この計画変更に対して良い悪いという議論をこの場でするものではないと思っています。こういった代替があるのかなどについては、バス会社と事務局で進めていただいていると思っています。それよりも、どうしようもなく足がなくなった人をどう運搬できるのか。ライドシェアなのか自動運転なのか、また、外出機会の減少によって経済効果が減ってしまうところをどう対策していくのかなどを議題として、この協議会の場で議論を

していきたいと考えています。

(秋里会長)

- ・ 協議会に対してのご質問、ご意見があったと受け止めています。やはり縮小しなければならないところは理解するけども、外出機会を確保するとなると、既存の手段だけでなく、新しい手段も確保すべきものと捉えさせていただきました。
- ・ 市民の方が移動しやすいように配慮していくことは、この協議会でも行政としても考えていかなければならないものと思います。そのために色々な意見を聞かなければならないと思います。
- ・ ライドシェアについて、先日の集まりが相当な熱気を帯びたと聞いております。また一方で、地方ではコミュニティバスを含めた、通常の路線バスではカバーできないところを補う手法が出つつあります。ただ、お金や仕組み、色々なところが課題になってくるものと思いますので、この協議会の場でどんな話ができるのか、事務局とも相談しながら進めていきたいと思っています。今回は、スクールバスの報告とご確認になりますが、いただいた発言は大変重要な視点であると思いますので、どう足を確保するのかという点についてお話をする機会を作っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

(吉田委員)

- ・ 多くの方がおっしゃっているのが、バスの運行間隔は狭くなくていいので、半径3キロメートルぐらいで降ろしてくれればそこからは歩けますとか、迎えにいけますとかはよく聞きます。夜遅くに帰ってくる人を含めて、間隔を広げても、定時にきちっと来てくれれば便利だという声を聞きます。そういったところを協議する価値はあるかなと思っています。

(秋里会長)

- ・ 今までの既成概念にとらわれない考え方も必要になってくると思いますので、他都市の先行事例も聞きつつ、わが町に合っている例があるのかを例示させていただきながら、何かしら議論をすべきと感じたところです。
- ・ 阿寒バスさんからは何かございますか。

(須田委員)

- ・ 2024年問題については重い法改正と捉えています。現行、退勤から出勤まで8時間空けなければいけないところ、4月からは9時間。原則は11時間空けなさいと国から示されています。当社の乗務員不足も深刻で、今後は減便も考えなければいけないと考えています。都市間バスの北見線と旭川線については、路線を統合し、経費の圧縮を図っているところで、人員確保に取り組んでいるところです。
- ・ くしろバスさんの減便はやむなしであると思いますが、今年10月にくしろバスさんが減便した中で、阿寒町方面に向かっているバスの乗車人数が増加しており、今後、自転車通学がなくなった冬になると、乗り切れないのではと乗務員から心配の声が

上がっています。また、来年4月のダイヤ改正においては、緑ヶ岡方面の北陽、工業、湖陵を通る路線を当社でも運行していきまして、今度はそっちの路線が溢れるのではと危惧しています。

- ・ 乗務員不足で、乗り残し防止策としての本便プラス続行便を出す余力もないので、どうしていこうかなと思っているところと、車両のバリアフリー化で車内の面積が小さくなっており、乗車定員も減っています。心配しているところです。

(秋里会長)

- ・ 乗務員環境が厳しい中でやりくりをして運行していただいているということですが、逆に言うと、平準にバランスよく乗ってもらえればいいのでしょうか、集中する路線がある中で、苦勞されているのだなというのがよく分かりました。
- ・ 一方で、利用者の利便性をどう確保していくのかは非常に大事だと考えていますので、意見交換しながら進めていければと考えています。

3 その他

- ・ 次回開催のスケジュールについて事務局より説明
- ・ その他の意見

(黒木委員)

- ・ 協議事項については、示されたとおり調整いただきましてありがとうございます。
- ・ おでパスについて、この事業の継続をどのように考えているのかお聞きしたいです。

(原委員)

- ・ おでパスは令和元年6月からスタートされております。当初から、釧路市介護高齢課からは予算ありきで、その当時は対象の方が4万2,000人おり、その前は回数券事業をやっていて、その回数券を取りに来る方が半分の2万1,000人くらいでしたので、その人数が何回バスに乗るかという想定回数で、それを予算化されました。初年度は何回乗るか分からないということで、スタートしました。
- ・ 結果、利用者はどんどん増えていて、多いときは月に7万回乗られる場合もあります。しかし実際は釧路市から5万4,000回ほどの予算しか出ていない状況です。今、介護高齢課の方も、乗車回数の実数をとれるように協議させてもらっているのですが、回数把握は我々が任意で、年に6回、1週間ずつ調査をするのですが、その調査回数に全然達しない分しかいただいていないので、これが続くと、事業継続が厳しくなってくるという考えもあります。現状では、実数把握の協議が続いているところです。
- ・ この事業をやめるとなれば、相当な暴動が起きるのではないかと思います。それぐらい肝の事業になっていますので、早めに実数把握をしていただかないと、事業継続は難しいと思っているところです。

(熊谷(瑠美子)委員)

- ・ くしろバスさん、阿寒バスさんの皆さまにつきましては、おでパスについてお世話になっており、ご理解、ご協力をありがとうございます。
- ・ 原様から色々諸問題についてお話いただきました。実はまさに回数をどういう風に把握するかが課題となっています。令和元年度に始まった当初、双方協議の上で合意をしていたのですが、やはり市民の方から反響があり、利用が増えています。使っている方の80%くらいが「使ってよかった」というご意見もいただいているところです。福祉部としては、高齢者の社会参加、貴重な移動手段を確保していきたいという想いで、皆様方のご協力をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。協議については、引き続き進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(秋里会長)

- ・ 高齢者の外出支援という中では、非常におでパスは効果が高い部分と思っておりますが、課題もあり、協議を進めていることもありますので、この辺はしっかりと進めていきたいと考えております。

(黒木委員)

- ・ もう一つ。原さんからご説明あったとおり、バスをたまに利用させていただくのですが、大分年季が入っているなあと。ご苦労されているのが分かります。できるだけ中古でもいいから新しい車両に切り替えていくのが大事なのかなど。当然自社だけでは難しいと思います。釧路市としても、対応策を考えていると思いますが、どのようなお話まで進んでいるのかについてお聞きします。

(秋里会長)

- ・ バスの車両自体に対する支援について何ができるのかについては、色々な手法がありますし、やるとなれば大きな予算が必要になることもあります。この辺につきましては、どのような形で取り組んでいけばいいのか、各地の事例も踏まえながら、バス会社の実情については、私が直接意見交換させていただいたこともございますので、こういったことを踏まえた形でしっかり議論していきたいと思っております。

4 閉会

(秋里会長)

- ・ 以上を持ちまして、「令和5年度第3回釧路市地域公共交通活性化協議会」を終了いたします。